

主体的な学び・豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【R6学校評価報告書】

【中学校区におけるめざす子ども像】
仲間とともに学びに向かえる子(中学校区・・・「学びの共同体」 小学校・・・「さまざまな形式での交流を取り入れた学習の実施」)

2025/3/21

堺市立平尾小学校
校長 喜田和彦

【令和6年度 重点目標】

- (1)「明日も学校に来ることが楽しみな子」の育成
 - ・主体的に学ぶ子の育成 ～「聴き合う」「つなぐ」「ふり返る」をめざした授業づくり～(今年度研修テーマ)
 - ・児童相互の交流の充実を図り、自分の考えを広めたり、深めたりできる授業の構築(一昨年度までの研修テーマ)
 - ・子どもの「居場所と出番」のある教育活動の推進 ・仲間の中で安心して過ごすことができる学校生活の実現
- (2)「グループ担任制」を生かした教育活動の実施。(複数で子どもたちに対応していく)
- (3)教職員それぞれの「よさ」や「発案・アイデア」を生かし、平尾小学校の教育をよりよいものとしていけるようにする。

※赤字は、令和6年度改訂した内容となります。
《達成度の評価》 ◎:達成している ○:概ね達成している △:目標に達していない

【確かな・主体的な学びの現状】

・全国及び大阪府の学力調査では、国語・算数とも全国平均、堺市平均を下回る結果となっている。一方、昨年・一昨年度と実施したリーディングスキルテストの結果については、リーディングスキルが向上している児童は、自ら考えて自主学習を行うなど、主体的に学習に取り組んでいることがわかった。

・また、3年生以上で実施している堺市学力・学習状況調査による「総合学力プロフィール」では、すべての学年で向上している結果となっている。一般的には、学年が進むにつれて、「学習へ向かう意欲」については、下がっていくのが当たり前である中、児童の心の動きを大切に学習指導へのアプローチが成果につながっていると考えている。

【豊かな心・健やかな体の現状】

・一昨年からスローガンとしている「友だちとなかよくする」「友だちの力になる」が児童に浸透するとともに、各学級・学年での日々の取り組みや平尾っ子での活動などを通して、児童相互のよりよい関係、相手を思いやる・大切にすることを育ってきていると考えている。

・スポーツテスト結果では、児童数が少ないこともあり、学年間のばらつきは見受けられる。一方、「運動がすき」「外遊びがすき」の項目では、9割以上が肯定的に回答しており、日々の体育の授業の工夫と、学級・学年・委員活動などでの遊びの展開の成果とみている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
主体的な学び	「グループ担任制」を生かし、複数の目で子どもたちを見守る。相談による支援・応援をする。	児童の主体的な学びを引き出す	●校内研修のテーマとして「主体的に学ぶ子の育成」をきっかけ、研究授業と普段の授業の中で実践を積み重ねる。その視点として児童が「聴き合う・つなぐ・ふり返る」活動に焦点を当て、「子どもたちが学びを進める学習」につながる授業づくりを行う。	「主体的な学習」への取り組みアンケートの状況スコア75ポイント以上	堺市学力・学習状況調査 学校アンケート	1・2学期末	「聴きあう・つなぐ・ふり返る」の視点を持ちながら各学年の研究授業を行うことができている。自ら学びを進める学習になるような、授業づくりを心掛け、挑戦することができている。	◎	「主体的に学ぶ子の育成」に向けて、「研修はじめの会」・夏の「中間の会」、そして「研修まとめの会」と、年間6回の各学年の研究授業を通して、学校として平尾小学校で求める児童の学び姿を確認しながら取り組むことができた。 ・4～6年実施の堺市学調(IRT調査)では、学校として、非認知能力(学びに向かう様々な力平均78.1)について、非常に高い結果となった。
		ICT活用を通して学力や情報活用能力の育成を図る	●児童に端末に慣れ親しませるとともに授業づくりに有効なICTの活用を図っていく。 ・端末の持ち帰りについて、有効な活用について検討し、順次実施の方向に向かう。	堺市学力・学習状況調査での一人一台端末の週1回以上の活用、9割。	堺市学力・学習状況調査 学校アンケート	1・2学期末	ICTを活用した、調べ学習や単元のまとめなどを行っている。動画を撮って自分たちの学習のふり返りを行い、次の活動につなげている。	○	「自ら学びを進める」学習をめざして、一人一台端末を日常的に、学習ツールの一つとして活用することができている。(週1回以上9割達成) 端末の持ち帰りについては、実施に学年間で差がある現状がある。
		国語科の言語活動や様々な教科での児童相互の交流を通し、学びの質を高める(一昨年度までの研修の財産の継承)	・国語科における①児童による学習計画、②全文掲示、③言語活動の設定、④並行読書や全教育活動を通して⑤考えを持つ、⑥意見交流を行うなど、これまでの研修成果を継承して取り組む。	①～⑥の実践を授業観察から確認。9割以上の実施をめぐす。	学校アンケート	1・2学期末	学習計画を自分たちで立てることを目指している。単元の最後に言語活動を設定し、学んだことをつかって表現する場を設定している。	○	・R4までの5年間にわたる国語科を中心とした研修の取り組みを生かした授業の展開を実施することができている。(教職員アンケート9割達成) 一方で、新しい学びの姿とどうリンクさせていくのか、検討する必要も出てきている。
		友だち(クラス・学年・異年齢)とより良い関係を築くとともに、規範意識を醸成する。 【いじめのない人間関係づくりにもつなげる】	●1・2年生は、「友だちとなかよくする」、3～6年生は「友だちの力」になることを意識して学校生活を送ることができるようにすることで、豊かな人と関わりの実現につなげていく。	「友だちとなかよくする・力になる」肯定的回答が84%以上	堺市学力・学習状況調査 学校アンケート	1・2学期末	友だちとも関わりでは特に高学年が平尾っ子を通して、人のために動ける児童が増えている。	◎	・各学年学級での仲間作りを大切にしたい働きかけや、児童朝礼等とことあることに「友だちと仲良くする、力になる」を意識させることで、仲間を大切にすることを育むことができた。(児童アンケート95%達成) 低学年と幼稚園との交流、5年生の新生児、体験入学、6年生の幼稚園、こども園の保育体験、さらに3年の世代間交流、5年の和風荘との交流などの幅広い年齢との交流により、優しく人に接する体験を積み重ねることができた。
豊かな心・健やかな体	「みそあじ」による月ごとの生活目標を守ることを通して、規律あるメリハリのついた学校生活を送ることができるようにする。 ・「みそあじ」は①身だしなみ②そうじ③あいさつ④時間を守る、の4つの目標。	「決まりを守っている」肯定的回答が95%以上	堺市学力・学習状況調査 学校アンケート	1・2学期末	生活アンケートより「みそあじ」や学校の決まりを守るの肯定的な回答が92%である。判断基準には少し足りないが、90%は超えている。	○	①身だしなみ②そうじ③あいさつ④時間を守るについて、継続して取り組むことができた。 特に①については、再度ルールをはっきり示し、保護者に協力を得ることができた。④については、20分休憩や昼休みのチャイム前に教室に戻る平尾小の伝統の継承に努めることができた。		
		体育の授業や休み時間の遊びを通して運動に親しみ経験を豊かなものにする	・体育科において、授業の展開を工夫することによって、その運動の特性の持つ楽しさを味わえるようにする。 ・休み時間の外遊びに積極的に取り組めるようにする(時期・期間を絞って)	「運動やスポーツは好きです」の肯定的回答が90%以上	堺市学力・学習状況調査 学校アンケート	1・2学期末	体育アンケートより「運動やスポーツは好きですか」の肯定的回答が90%以上である。	○	・体育科の授業で、学習カードやホワイトボードによる提示、学習端末を活用するなど、より運動に親しむ学習活動を展開できた。 クラスでのみんな遊びや体育委員会の遊びや運動を推進する取り組みによって運動したし、機会を増やすことができた。
地域協働	・これまで地域との協働で培ってきた「地域コミュニティ学校」としての位置づけを今後につなげていくように配慮して、地域とのかかわりを継続していく。	・世代間交流、野菜の栽培活動、平尾っ子まつり等の子どもと地域、保護者との交流活動や支援活動を行うことで、三者協働による学校づくりを進める。	堺コミュニティや地域の力を借りての協働した学習の実施(学校で6回以上)	学校アンケート	2学期末	地域コミュニティの力を借りて、サンマンモやじゃがいもの栽培、世代間交流の行事を終えた。3学期には、地域とPTAと協力してもちつき大会を行う予定があるなど、順調に進んでいる。	◎	・平尾校区コミュニティや、福祉委員会、見守り隊の皆様の方添えて、予定した取り組みを実施できた。 ・平尾校区コミュニティの尽力とPTAの協力で、全児童による餅つきを6年ぶりに実施できた。	

【校長より(年度末)】

・平尾小学校では、令和6年度、「明日も学校に来ることが楽しみな子」をスローガンに、「主体的に学ぶ」「自ら学びを進める」「友だちと仲良くする、力になる」子どもの育成をめざすことを重点的に取り組むを進めてきた。
・学校での取り組みを重点化、焦点化することにより、学校全体として心を1つにして教育活動を進めることができた。
・また、それぞれの教員が持つ「よさ」や「発案・アイデア」を生かした学習や取り組み、複数の目で子どもたちに対応していく実践をより多く展開できた。
・これを通して、子どもたちは、毎日の学校での活動を楽しみし、学習へ向かう意欲を大きくするとともに、人と接する体験を豊かに積み重ねることができたと感じている。

【学校関係者評価者から(年度末)】

・「明日も学校に来ることが楽しみな子」をスローガンに、先生方が一致団結して、「主体的に学ぶ力」や「心と体の育成」に尽力していることがよくわかった。
・重点的な取組を学校としてしっかりと絞って、それに力を入れて継続した実践につなげていることが、成果につながっていると思われる。